

## 令和2年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進経費 <input checked="" type="checkbox"/> 若手教員研究支援経費 <input type="checkbox"/> 個人研究支援経費
プロジェクトの名称	教師のキネステーズ身体に着目した実技実習の開発
報告者氏名・所属・職名	山本悟・釧路校・准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	
<b>研究内容及び成果の概要</b>	
<p>器械運動の学習において学習者は“コツ”を探し求めている。教師の役割は、この“コツ”の学習指導を中核として授業を描き実践することにある。本研究の目的は、現職教員の学習指導の力量形成のための実技実習の開発をすることである。</p> <p>学部の実技実習では、大学教員が予め準備したプログラムを実施してきた。このことは、教員の養成、という意味においては非常に重要な実技実習であると考えられる。なぜなら、将来の教師（学生）の実技力の向上は、学習者に運動を直接呈示することにつながるだけでなく、自分のできるまでのプロセスを分析することにより、学習者主体を考慮した学習指導につながる可能性があるからである。しかしながら、現職教員は、すでに指導経験を有しており、学部教育のような一律の実技実習では、その効果を望めないことが考えられる。なぜなら、教師一人ひとりの学習指導における“悩み”が違うからである。また、身体的にも学部のころよりは衰えるため、実技実習の内容によっては、怪我等につながる危険性もある。</p> <p>プロジェクト代表者の勤務する大学では、令和3年度より既存の修士課程が専門職学位課程（教職大学院）に移行することとなった。そこでは、教師教育の高度化を視野にいれた教師のライフステージに合わせた教育内容を提供する必要性が生じてきている。そこで、本プロジェクトでは、教師の学習指導上の“悩み”に寄り添いながら、オーダーメイド方式の実技実習を行うための前提となる、“悩み”の抽出を行うための方法を考案することとした。</p> <p>具体的には、教師自身の学習指導における反省分析を促すための「質問紙」考案と、「質問紙」に基づく大学教員が現職教員に行う「動感借問」（金子、2005b, p.199）の「借問例」を考案することができた。これら二つの方法を用いて“悩み”とその背景にある教師のキネステーズを大学教員が理解することができるようになった。今後は、教師のキネステーズを理解した上での実技実習の具体的な素材の選定と道しるべを描く必要があるが、これについては現在進行中であり、研究論文として報告したい。</p>	
<b>成果の公表の状況</b>	
【著書】	
【学術論文】	
<b>教育現場で活用可能な分野・教材等</b>	
配布又はダウンロード可能な資料	
問い合わせ先	代表者：山本悟 電話：0154-44-3352 FAX：0154-44-3352 mail：yamamoto.satoru@k.hokkyodai.ac.jp